



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

2016-2017年度 第8週報 No. 1944 2016年(平成28年) 8月26日 第1944回 例会記録 9月2日発行

本日〈9月2日〉のプログラム

- ◆ 齊 唱 「君が代」「奉仕の理想」
- ◆ 献 立 松茸御膳
- ◆ 卓 話 ガバナー公式訪問
国際ロータリー第2590地区 ガバナー
高良 明 様

<< 本日のBGM >>
アルバム「アヴェ・マリア 祈りのハーモニー」より



PHOTO 加野亮一 会員

司 会 白鳥 厚夫 副幹事

結婚記念日祝 岡部雄一郎 会員 (9月1日)

点 鐘 植田 清司 会長

齊 唱 「それでこそロータリー」

四つのテスト 横溝 亘 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)



ゲスト紹介 安井 恵子 様 (ゲストスピーカー)

ビジター紹介 神奈川RC 田中 幸男 様
横浜金沢RC 小林 英生 様

2016-2017年度 RI会長 ジョン F. ジャーム



人類に
奉仕する
ロータリー

第2590地区 ガバナー 高良 明

会 長 植田 清司	会 計 白井 康夫
会長エレクト 矢野 修二	副 会 計 河野 明光
副 会 長 西山 潔	S A A 田中 龍太郎
副 会 長 伊東 英紀	副 S A A 茂木 知子
幹 事 小山市 康	副 S A A 吉田 隆男
副 幹 事 白鳥 厚夫	クラブ会報 加野 亮一

例会日 毎週金曜日 0:30~1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)
例会場 ホテルキャメロットジャパン
URL <http://www.kanagawahigashi.com/>
E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

事務局 ホテルキャメロットジャパン内
〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555
創立記念日 昭和51年5月29日

会長報告

植田 清司 会長

- ・国際ロータリー2720地区より、熊本・大分地震義援金のお礼状が届いておりますので回覧致します。
- ・R I 事務局より河野明光会員と天野公史会員に、MPHFの認証ピンが届いておりますので贈呈します。



幹事報告

小山 市康 幹事

- ・地区大会記念熊本地震・東日本大震災チャリティーディナーパーティーとチャリティゴルフの案内が来ておりますので回覧致します。
- ・先週に引き続きR財団100周年記念シンポジウムの案内を回覧します。
- ・次週、9月2日はガバナー公式訪問となります。100%の出席でお迎え出来るようご協力のほどよろしくお願い致します。また、例会終了後にはガバナーを囲んでの懇談会がございます。こちらの方もご出席の程宜しくお願い致します。
- ・本日、例会終了後に8月度定例理事会を開催致します。
場所 3F ナイト
- ・9月のロータリーレートは変更はございません。
\$ 1 = 102円

◎例会変更のお知らせ

- *横浜日吉ロータリークラブ
9月28日(水) 移動例会
- *横浜北ロータリークラブ
9月6日(火) 夜間例会

出席報告

岡部雄一郎 出席委員

会員総数	49名	(29+20)名
出席会員数	34名	(23+11)名
出席率	85.00%	
ゲスト	1名	ビジター 2名
前回補正後	88.10%	前々回補正後 86.05%

スマイルボックス

茂木 知子 副SAA

神奈川RC 田中幸男様 暑中、お世話になります。

岡部雄一郎君 結婚祝い、ありがとうございます。これから先もお互い健康に気を付けて頑張りたいと思います。

植田清司君 安井恵子様、本日の卓話、宜しく願い致します。楽しみにしています。

青柳 紀君 朝夕少し涼しくなったかなー！

江森国一君 山本先生、お世話になりました。来年も宜しく願い致します。

河野明光君 安井様、本日の卓話、楽しみにしております。

山本芳弘君 先日は、誕生祝いをありがとうございました。

白鳥厚夫君 安井恵子様、本日の卓話「横浜にホスピスを」を楽しみにしております。

金森欣一君 安井様、本日の卓話をありがとうございます。楽しみにしております。

茂木知子さん ~神奈川東ロータリークラブ 川柳の会第一号~
~大年増 ひと汗かけば すっぴんに 女子会ですかと言われて、恥ずかし大年増。

8月26日	10件	26,000円
本年度累計		365,000円

横浜にホスピスを

横浜小児ホスピス設立準備委員会 事務局 安井 恵子 様
(紹介者 但野真実子 会員)



【プロフィール】

最終学歴 洗足学園短期大学 ピアノ科卒
職 歴 (有) パーソナルアシスタント町田
介護福祉士
安井ピアノ教室
横浜小児ホスピス設立準備委員会 事務局
出身地 神奈川県出身
住 所 横浜市青葉区

自己紹介



安井恵子

神奈川県出身(横浜市青葉区在住)
洗足学園短期大学ピアノ科卒
・(有)パーソナルアシスタント町田 介護福祉士
・安井ピアノ教室
・横浜小児ホスピス設立準備委員会事務局

- ・1991年10月30日、息子の伸吾を出産
1歳で脳腫瘍(余命半年~1年)
⇒開頭手術、放射線治療、抗がん剤治療
⇒知的障害、下垂体機能低下症
- ・2013年10月(21歳)二次性の脳腫瘍発症
21年前に行った放射線照射部位と一致
- ・2014年5月25日 永眠



最愛の息子との永遠の別れ



そして、遺された家族の新たな人生の始まり

横浜小児ホスピス設立準備委員会

2014年6月15日
横浜の元看護婦からの1億500万円の寄付を元手に横浜小児ホスピス設立準備委員会発足

2015年1月29日
横浜小児ホスピス設立のためのハートフルツアーVol.1開催。以降2015年中に計4回開催
夏休みに開催したコンサートには市内の小学生を100名無料招待
⇒新聞各紙に掲載され、その記事をこぼした市民より1億円の寄付

2016年2月
横浜市会で自民党の松本研氏が本会議にて議論。林文子横浜市長から当団体の活動について前向きな
答弁。その後横村横浜市長の呼び掛けにより全市会議員対象の超党派勉強会を開催

2016年2月29日
横浜市の医療局長城氏を始め医療局の方と顔を合わせ、医療局が窓口となり、横浜市と連携した取り組みを開始

2016年5月18日
初のシンポジウムを開催。地医療局長、厚労委員長の三原じゅん子参議院議員等が来賓として参加。
この活動の公式テーマソング「心から、ありがとう」を発表

2016年7月20日
5回目のコンサート開催。横浜市内の子供無料招待実施

2016年10月
公式テーマソング「心から、ありがとう」全国発売

現在
過去5回のコンサート活動を通じて、募金総額が約2億5千万円になる

みんな使命を持って生きている！

～同じ思いを持つ仲間達との出会い～



伸吾誕生、1歳で脳腫瘍、余命宣告



2歳の頃からずっと一人で伸吾を育てる



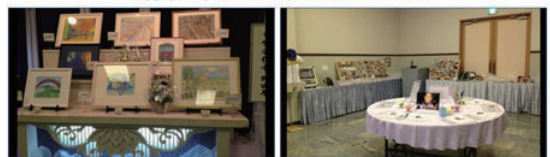
これから、、、、、、みらいへ！

余命を宣告された子供は死の直前まで成長し続けていきます。
そして、こどもは最期の瞬間まで遊び続けたいと願っています。
現状では余命を宣告されたこどもの多くは病室のベッドの上で亡くなっていきます。
その病室には基本的には親御さんしか入れません。
私達は3年以内に、病気のこどもやご家族が安心して過ごせる「小児ホスピス」を
横浜に建設したいと考えています。
その施設は地域に親しまれ、愛され、開放され、いつでもこどもたちの笑顔が絶えない。
また、こどもを亡くされたご家族がいつでも訪れることができる場所であって欲しい。
そんな風に思っています。

21歳で二度目の脳腫瘍、入院、在宅看取りへ



ご清聴ありがとうございました



皆様にご協力を頂いた設立準備の為の募金は、42,100円になりました。ありがとうございました。

ロータリーニュース

シェルターボックスとロータリーが イタリア地震の救援活動を開始

8月24日（水）にイタリア中部で発生したマグニチュード6.2の地震では、120人以上が死亡し、瓦礫の下敷きになっている人も大勢いると見られています。この地震では、震源地の南西100キロに位置するローマでも揺れが観測されました。

ロータリーのプロジェクトパートナーであるシェルターボックスは、英国の本部から、最も甚大な被害が出ている遠隔地の山岳部に救援チームを派遣します。8月26日（金）に到着予定のこのチームは、現地のニーズに応える活動を開始します。

救援チームを率いるシェルターボックス・イタリアのルカ・デラ・ヴォルタ支部長は、被災地に最も近いRietiロータリークラブ（第2080地区）と協力するほか、現地の自治体、消防局、赤十字とも連携して救援活動にあたります。

シェルターボックスは、地震によって家を失った人たちに、イタリアやヨーロッパ全土の拠点からシェルターやその他の救援物資を提供します。ヴォルタさんによると、最も必要とされているのは、地元病院に提供するテントや救援物資であるとのこと。病院には、最も被害の大きかった地域から多くの負傷者が運び込まれています。

ロータリーEクラブ2042イタリアの創立会長でもあるデラ・ヴォルタさんは次のように話します。

「今回の地震がもたらした被害に心を痛めています。私たちロータリアンは常に、支援を必要とする人たちに手を差し伸べる準備ができています」



ドノヴァンがポリオ撲滅大使に

ロックの殿堂入りを果たした伝説的シンガーで、ポリオサバイバーであるドノヴァン・レイッチ氏が、幼いころに苦しめられたポリオ（小児まひ）と再び闘うため、ロータリーのポリオ撲滅大使となりました。

3歳のときにグラスゴー（スコットランド）でポリオに感染したドノヴァン氏。右足がだんだんと弱く、細くなり、左足より小さくなりました。彼は、わが子のベッドにかかりきりとなった父親が、自分に詩を読んでくれたと当時を偲びます。

その詩があったから、創造的なライティングの力が育ったのだと同氏は話します（「Daily Express」とのインタビュー）。

「あの経験がなかったら、この半世紀、自ら作詞を手がけることはなかったでしょう」

「一つの領域で障害をもつことが、ほかの領域の探索へと自身を駆り立てるのだと、僕は強く感じます」と話すドノヴァン氏。そうして最近、ロータリーのポリオ撲滅大使となりました。

ドノヴァン氏は、英米その他の国々でヒットアルバムと、『メロー・イエロー』や『ハーディ・ガーディ・マン』といったお馴染みのシングルを生み出しました。また、『イエロー・サブマリン』を含む複数曲でのビートルズとのコラボや、ボブ・ディランやジョン・パエズといった伝説的ミュージシャンとの共演も実現。

「ポリオに感染したことが、年齢を重ねる中で妨げになったことはありません。片足がもう片方の足より小さいと、何の問題もなく動き回れるような楽しさは得られないけれど、幸い音楽業界では、みんな僕の歌と演奏だけに関心を寄せてくれます。足のサイズじゃなくてね」

ドノヴァン氏は今後、ポリオ撲滅大使として「Purple 4 Polio campaign」（ポリオのための紫キャンペーン）を支援します。これはグレートブリテンとアイルランドのロータリーと王立園芸協会の協力による活動で、紫という色は、ポリオ予防接種活動で、保健員がワクチンを与えた子どもの小指に紫色のインクを付けることに由来しています。

「ポリオに感染した身ですから、このキャンペーンに参加する決断は簡単でした。皆さんに伝えたいことは、ポリオは世界中からほぼ撲滅間近であるということ。これはとても重要なことです。最後の一押しというのは、いつだって最も苦勞を要することですから、僕は力になりたいんです」

ロータリーニュース



次回〈9月9日〉の予定

テーマ 「がんを遠ざける生活習慣」

国立がん研究センター 社会と健康研究センター
センター長 津金昌一郎 様
(紹介者 江森 国一 会員)